

## コロナ禍の中でも積極的に活動している

府中市シニアクラブ連合会 副会長 根岸光紀さん(多磨町在住)

今回は、府中市シニアクラブ連合会(シニア連)での活動、地域の社会貢献、ボランティア活動など、地域に深く関わり積極的な活躍をしておられ、「生涯学習ボランティア『悠学の会』」の会員でもある根岸光紀さんにご登場いただきました。



### Q1 シニア連との関わりはいつごろからですか

シニア連は、市内のシニアクラブ(単位クラブ)の統合団体で、文化センターの圏域に従って9つの地区シニア連に分かれています。地区シニア連の会長はシニア連の理事としてその運営に当たります。

私は、紅葉ヶ丘地区のシニアクラブで活動していましたが、地区会長が体調を崩され、なんとかか代わりをとの要請を受けて地区会長になり、平成26年(2014)からシニア連に参画し始めました。

現在は副会長で、広報部担当として広報誌『府中シニア連だより』の作成に携わっています。この広報誌は年4回の発行で、12頁構成。発行部数は6,000部で、約5600名の会員と、市役所、市内の文化施設や各所に配布されています。

### Q2 コロナ禍のなかで、取材や情報収集のためには、どのような工夫をしていますか

広報誌では、シニア連の主催行事を取材し記事にするのですが、現在の新型コロナウイルス禍の影響で、そうした全体で行うイベントがほとんど中止になって、記事探しに苦労しています。

と言っても、地区ごとや各クラブでは、感染対策をしっかりと、密にならない人数制限のもと開催されているイベントもあります。会員の平均年齢が78~80歳のクラブが多いので感染が心配ですが、グランドゴルフ、ペタンク、輪投げなど、密を避けられる野外の軽スポーツを主体に、会員のフレイル予防のために行っています。広報部にとっては貴重な記事ですので、写真撮影を兼ねて取材に出掛け、できるだけ記事にしています。

でも、よかった事もあります。行事の記事が少なくなった代わりに、最近では会員から投稿される記事(体験談、短歌や俳句など)の掲載も積極的にやるようになり、今までと違った誌面構成を試すことが出来たのは幸いです。一方、町会では



コロナ禍で、市の指導により回覧板を回覧する事がで

きないため、市としても必要な市民への情報伝達が出来なくて困っています。その一助として、市役所各部門から市民に伝えたい情報を提供してもらい掲載させて頂くことで、市のお手伝いと同時に私ももの記事の穴埋めにも利用でき助かっています。

### Q3 地域活動の中で、人と人の接し方、交流の仕方など、これから力を入れていきたいところは

私は今、多磨町自治会の副会長として、地域の見守り活動、町会サロンの開催(月1回/高齢者の居場所づくり)をやっています。見守りでは、高齢の独居の方、同居者がいても昼間は独りになる方を対象者として予め募集し、自宅訪問や電話での状況確認をしており、状況に応じては、地域の包括支援センターや社会福祉協議会、警察とも連携を取り、いざという時の対応をしています。こうした活動に、さらに力を入れていきたいですね。

### Q4 質問が変わりますが、今も永く続けていることはありますか

以前やっていた漆塗り(螺鈿)をまたやりたいのですが、なかなか時間が取れず、手が回りません。材料は置いてあるのですが…。

今は、町会サロンで皆さんに楽しんでもらえればと思い、ウクレレ演奏を独学で始めました、2年くらいになりますか。コードはすぐ忘れてしまいますが、暇があれば少しずつ練習をしています。少しは上達したかな…。

### Q5 シニアクラブや地域などで、これからやりたい事がありますか

自身も昨年80歳になって、齢(よわい)を数える時期になりました。あれこれではできませんが、地区の災害時の支援活動システムを作りたいと思っています。市には75歳以上の人への「災害時要援護者制度」というのがあって、災害の時などに支援を希望する人を募集して登録しています。実際の支援活動の担い手は、地域の町会や民生委員なのですが、まだちゃんとしたシステムとして出来上がって機能するところまで至っていないのです。要支援者の個人情報絡みもあって難しいですね。

これから、民生委員の人たちとも協力して、出来るだけ早く作り上げたいと思っています。

(取材・文/渡邊繁雄)